

栃木県警察における特定秘密の保護に関する規程

(平成27年9月1日)
(栃木県警察本部訓令乙第九号)

～原文は縦書き～

目次

- 第一章 総則（第一条—第五条）
- 第二章 特定秘密の指定等に伴う措置（第六条—第十二条）
- 第三章 特定秘密の取扱いの業務
 - 第一節 保護のための環境整備（第十三条—第十八条）
 - 第二節 作成（第十九条・第二十条）
 - 第三節 運搬、交付及び伝達（第二十一条—第二十八条）
 - 第四節 保管等（第二十九条—第三十二条）
 - 第五節 検査（第三十三条）
 - 第六節 紛失時等の措置（第三十四条）
- 第四章 特定秘密の指定等が法等に従っていないと認めたときの措置（第三十五条）
- 第五章 公益上の必要による特定秘密の提供の手続（第三十六条）
- 第六章 公益上の必要による特定秘密の提供を受けた場合の保護措置（第三十七条）
- 第七章 適性評価（第三十八条—第四十八条）
- 第八章 通報窓口の設置（第四十九条）
- 第九章 雑則（第五十条—第五十四条）

第一章 総則

（趣旨）

第一条 この訓令は、警察庁長官（以下「長官」という。）が特定秘密の保護に関する法律（平成二十五年法律第百八号。以下「法」という。）第五条第二項に規定する通知を行った場合及び法第七条第一項に規定する提供を行った場合において、法第五条第三項（法第七条第二項において準用する場合を含む。）に規定する指示に従い、当該通知又は提供に係る特定秘密（法第三条第一項の規定により指定された特定秘密をいう。以下同じ。）の保護及び法第十五条第一項に規定する適性評価（以下単に「適性評価」という。）に関し、栃木県警察が講ずべき措置等を定めるものとする。

2 栃木県警察における特定秘密の保護等に関しては、法、特定秘密の保護に関する法律施行令（平成二十六年政令第三百三十六号。以下「令」という。）、特定秘密の指定及びその解除並びに適性評価の実施に関し統一的な運用を図るための基準（平成二十六年十月十四日閣議決定。以下「運用基準」という。）及びこの訓令の定めるところによる。（特定秘密管理者）

第二条 令第十三条第一項各号列記以外の部分に規定する措置として実施する令第十二条第一項第一号に規定する特定秘密の保護に関する業務を管理する者（以下「特定秘密管

理者」という。)の指名については、警備部長を指名するものとする。

(保全責任者等)

第三条 特定秘密管理者は、特定秘密の保護に関する業務を補助させる者として保全責任者を指名するものとする。

- 2 保全責任者は、特定秘密管理者の管理する特定秘密文書等（令第五条に規定する特定秘密文書等をいう。以下同じ。）の登録及び保管並びにこれらに伴う事務を行うほか、特定秘密を適切に保護するために必要な措置を講ずるものとする。
- 3 特定秘密管理者は、必要と認めるときは、保全責任者の補助者（以下「保全責任者補助者」という。）を指名することができる。
- 4 特定秘密管理者は、保全責任者が不在であることその他の理由により、その職務を行うことができないときは、臨時にその職務を代行する職員（以下「臨時代行職員」という。）を指名することができる。
- 5 保全責任者、保全責任者補助者及び臨時代行職員は、法第十一条の規定により特定秘密の取扱いの業務を行うことができるとされる者でなければならない。

(職員の範囲の制限)

第四条 法第十一条の規定により特定秘密の取扱いの業務を行うことができるとされる者のうちからの特定秘密の取扱いの業務を行わせる職員の範囲の決定は、係単位又は官職単位で行う方法その他その取扱いの業務の実情に応じた方法により行い、その範囲は当該特定秘密を知得させる必要性を考慮して必要最小限にとどめるものとする。

- 2 特定秘密管理者は、前項の特定秘密の取扱いの業務を行わせる職員の範囲を書面に記載し、又は電磁的に記録しておくものとする。

(保全教育)

第五条 特定秘密管理者は、職員に対し、特定秘密を適切に保護するために必要な知識の習得及び意識の高揚を図るための教育を実施するものとする。

- 2 前項の教育は、特定秘密の取扱いの業務を行う職員が少なくとも年一回受講することができるように実施するものとする。ただし、必要な場合は、当該教育を臨時に実施するものとする。
- 3 特定秘密管理者は、新たに特定秘密の取扱いの業務を行うこととされる職員に対して、その取扱いの業務を行う前に、第一項の教育を受講させるように努めるものとする。

第二章 特定秘密の指定等に伴う措置

(特定秘密の表示の方法)

第六条 令第十三条第一項第一号（同条第二項において準用する場合を含む。）に規定する特定秘密を明確化するための措置として行う法第三条第二項第一号の表示（以下「特定秘密表示」という。）は、保全責任者が、次の各号に掲げる特定秘密文書等の区分に応じ、当該各号に定めるところによりするものとする。

- 一 特定秘密である情報を記録する文書又は図画 その見やすい箇所に、印刷、押印その他これらに準ずる確実な方法により「特定秘密」の文字及び枠を赤色（やむを得ない場合には、赤色以外の色。以下同じ。）で付すること。この場合において、当該文書又は図画のうち当該情報を記録する部分を容易に区分することができるときは、当該部分を明らかにした上で、当該表示は、当該部分にすること。

- 二 特定秘密である情報を記録する電磁的記録 当該電磁的記録のうち当該情報を記録する部分を電子計算機の映像面上において視覚により認識することができる状態にしたときに、「特定秘密」の文字及び枠を赤色で共に認識することができるようにすること。
- 三 特定秘密である情報を記録し、又は化体する物件 その見やすい箇所（見やすい箇所がないときは、その保管に用いる容器又は包装の外部）に、刻印、ラベルの貼付けその他これらに準ずる確実な方法により「特定秘密」の文字及び枠を赤色で付すること。この場合において、当該物件のうち当該情報を記録し、又は化体する部分を容易に区分することができるときは、当該表示は、当該部分にすること。
- 2 特定秘密表示を特定秘密を記録する文書又は図画に付する場合において、当該文書又は図画が冊子の一部であるときは、当該冊子の表紙に「特定秘密文書」の文字を赤色で記載するものとする。ただし、当該表紙に特定秘密表示がある場合は、この限りでない。
- 3 特定秘密文書等を特定秘密表示を含めて複製することにより作成したときは、特定秘密表示をすることを要しない。前項の規定による記載を含めて複製することにより作成した場合も、同様とする。
- 4 第一項の場合において、特定秘密文書等に記録されている特定秘密が外国の政府又は国際機関（以下「外国の政府等」という。）との間の情報の保護に関する国際約束（以下単に「情報の保護に関する国際約束」という。）に基づき提供された情報であるときは、特定秘密表示に加え、第一項各号に定める方法と同様の方法で当該外国の政府等を示す表示をするものとする。ただし、特定秘密である情報の性質上当該表示することが困難である場合は、この限りでない。
- 5 前項の規定にかかわらず、当該特定秘密文書等に外国の政府等を示す表示が既にされているときは、前項の規定による表示をすることを要しない。
- 6 第一項第一号又は第三号に定めるところにより行う特定秘密表示の寸法は、縦十二ミリメートル、横四十ミリメートルを標準とする。ただし、他の寸法とすることに合理的な理由がある場合は、この限りでない。

（通知の方法）

第七条 令第十三条第一項第一号（同条第二項において準用する場合を含む。）に規定する特定秘密を明確化するための措置として行う法第三条第二項第二号の通知は、栃木県警察本部長（以下「警察本部長」という。）が、指定の有効期間が満了する年月日及び指定に係る特定秘密の概要を記載した別記様式第一号の書面により行うものとする。

- 2 前項の通知は、当該特定秘密の取扱いの業務を行う職員に同項の書面を供覧させることにより行うものとし、作成する当該書面の数は、必要最小限にとどめるものとする。

（周知の方法）

第八条 法第五条第二項に規定する特定秘密の指定に伴う通知があったときは、特定秘密管理者は、当該指定がされた旨、指定の有効期間が満了する年月日及び指定に係る特定秘密の概要を記載した別記様式第二号の書面（電磁的記録を含む。）により、当該指定に係る特定秘密の取扱いの業務を行う職員（前条第一項の通知を受けた者を除く。）に周知するものとする。

2 前項の周知を書面により行う場合には、当該周知は、当該特定秘密の取扱いの業務を行う職員に同項の書面を供覧させることにより行うものとし、作成する当該書面の数は、必要最小限にとどめるものとする。

(指定の有効期間の延長に伴う措置)

第九条 令第十三条第一項第三号（同条第二項において準用する場合を含む。）に規定する指定の有効期間の延長に伴う通知は、警察本部長が、当該指定の有効期間が延長された旨及び延長後の当該指定の有効期間が満了する年月日を記載した別記様式第三号の書面により行うものとする。第七条第二項の規定は、この場合に準用する。

2 令第九条第一号に規定する指定の有効期間の延長に伴う通知があったときは、特定秘密管理者は、当該指定の有効期間の延長がされた旨及び延長後の当該指定の有効期間が満了する年月日を別記様式第四号の書面（電磁的記録を含む。）により、当該指定に係る特定秘密の取扱いの業務を行う職員（前項の通知を受けた者を除く。）に周知するものとする。第八条第二項の規定は、この場合に準用する。

(特定秘密表示の抹消)

第十条 令第十三条第一項第二号イ及び第四号イ（同条第二項において準用する場合を含む。）に規定する特定秘密表示の抹消は、保全責任者が、次の各号に掲げる特定秘密文書等の区分に応じ、当該各号に定める方法によりするものとする。

一 特定秘密であった情報を記録する文書又は図画特定秘密表示に、赤色の二重線を付することその他これに準ずる確実な方法

二 特定秘密であった情報を記録する電磁的記録当該電磁的記録のうち当該情報を記録する部分を電子計算機の映像面上において視覚により認識することができる状態にしたときに、特定秘密表示の「特定秘密」の文字及び枠を認識することができないようにする方法

三 特定秘密であった情報を記録し、又は化体する物件刻印によって特定秘密表示をしているときは当該表示に二重線を刻印すること、ラベルによって特定秘密表示をしているときは当該表示に赤色の二重線を付することその他これらに準ずる確実な方法

2 前項第一号に掲げる文書又は図画が第六条第二項の規定による記載をしたものであるときは、同号の規定の例により、当該記載を抹消するものとする。

(指定の有効期間の満了に伴う措置)

第十一条 令第十三条第一項第二号イ（同条第二項において準用する場合を含む。）に規定する指定有効期間満了表示は、保全責任者が、次の各号に掲げる旧特定秘密文書等の区分に応じ、当該各号に定めるところによりするものとする。

一 特定秘密であった情報を記録する文書又は図画抹消した特定秘密表示の傍らの見やすい箇所に、印刷、押印その他これらに準ずる確実な方法により「特定秘密指定有効期間満了」の文字及び枠を赤色で付すること。

二 特定秘密であった情報を記録する電磁的記録当該電磁的記録のうち当該情報を記録する部分を電子計算機の映像面上において視覚により認識することができる状態にしたときに、「特定秘密指定有効期間満了」の文字及び枠を赤色で共に認識することができるようにすること。

三 特定秘密であった情報を記録し、又は化体する物件抹消した特定秘密表示の傍らの

見やすい箇所（見やすい箇所がないときは、その保管に用いる容器又は包装の外部）に、刻印、ラベルの貼付けその他これらに準ずる確実な方法により「特定秘密指定有効期間満了」の文字及び枠を赤色で付すること。

- 2 前項第一号又は第三号の定めるところにより行う指定有効期間満了表示の寸法は、縦十二ミリメートル、横四十ミリメートルを標準とする。ただし、他の寸法とすることに合理的な理由がある場合は、この限りでない。
- 3 令第十三条第一項第二号ロ（同条第二項において準用する場合を含む。）に規定する指定の有効期間の満了に伴う通知は、警察本部長が、当該指定の有効期間が満了した旨を記載した別記様式第五号の書面により行うものとする。第七条第二項の規定は、この場合に準用する。
- 4 令第八条第一項第二号に規定する指定の有効期間の満了に伴う通知があったときは、特定秘密管理者は、当該指定の有効期間が満了した旨を記載した別記様式第六号の書面（電磁的記録を含む。）により、当該指定に係る特定秘密の取扱いの業務を行う職員（前項の通知を受けた者を除く。）に周知するものとする。第八条第二項の規定は、この場合に準用する。

（指定の解除に伴う措置）

第十二条 前条第一項及び第二項の規定は、令第十三条第一項第四号イに規定する指定解除表示について準用する。この場合において、前条第一項中「特定秘密指定有効期間満了」とあるのは、「特定秘密指定解除」と読み替えるものとする。

- 2 令第十三条第一項第四号ロ（同条第二項において準用する場合を含む。）に規定する指定の解除に伴う通知は、警察本部長が、当該指定が解除された旨及びその年月日を記載した別記様式第七号の書面により行うものとする。第七条第二項の規定は、この場合に準用する。
- 3 令第十一条第一項第二号に規定する指定の解除に伴う通知があったときは、特定秘密管理者は、当該指定が解除された旨及びその年月日を記載した別記様式第八号の書面（電磁的記録を含む。）により、当該指定に係る特定秘密の取扱いの業務を行う職員（前項の通知を受けた者を除く。）に周知するものとする。第八条第二項の規定は、この場合に準用する。

第三章 特定秘密の取扱いの業務

第一節 保護のための環境整備

（立入制限）

第十三条 特定秘密管理者は、特定秘密が取り扱われる場所について、特定秘密を適切に保護するため必要があると認めるときは、その場所への立入りを禁止するものとする。

ただし、特定秘密管理者の許可を受けた者は、この限りでない。

- 2 前項の規定により立入りを禁止した場合には、特定秘密管理者は、その場所に立ち入ってはならない旨の掲示を行うとともに、立入りを防止するために必要な措置を講ずるものとする。

（機器持込制限）

第十四条 特定秘密管理者は、次の各号に掲げる場所その他必要と認める場所について、携帯型情報通信・記録機器（携帯電話、携帯情報端末、映像走査機、写真機、録音機、

ビデオカメラその他の通話、情報通信、録音、録画等の機能を有する機器をいう。次項において同じ。)の持込み(以下この条において「機器持込み」という。)を禁止するものとする。

一 前条第一項の規定により立入りが禁止された場所

二 日常的に特定秘密を取り扱う執務室(障壁等により物理的に隔離した区画においてのみ特定秘密を取り扱う場合には当該区画に限る。)

三 特定秘密を取り扱う会議を開催する会議室(当該会議の開催中に限る。)

四 特定秘密文書等を保管する保管施設

2 職員は、前項の規定による禁止がされた場所に機器持込みをしてはならない。ただし、保全責任者の許可を受けた者が保全責任者の許可を受けた携帯型情報通信・記録機器を持ち込む場合については、この限りでない。

3 第一項の規定により機器持込みを禁止した場合には、特定秘密管理者は、その場所に機器持込みをしてはならない旨の掲示を行うとともに、機器持込みを防ぐために必要な措置を講ずるものとする。

(特定秘密文書等の保管容器等)

第十五条 特定秘密文書等(電磁的記録を除く。)は、三段式文字盤鍵を備えた金庫又は鋼鉄製の箱その他の施錠可能で十分な強度を有する保管庫に保管するものとする。

2 特定秘密文書等(文書又は図画に限る。)が他の文書と同一の文書ファイルにまとめられている場合には、当該特定秘密文書等を他の文書とは別のファイリング用具に格納した上で、前項の規定により保管するものとする。

3 特定秘密である情報を記録する電磁的記録を記録する電子計算機及び可搬記録媒体(電子計算機又はその周辺機器に挿入し、又は接続して情報を保存することができる媒体又は機器(第十八条第一項において「記録媒体」という。)のうち、可搬型のものをいう。第十七条第二項及び第四項において同じ。)には、その盗難、紛失等を防止するため、電子計算機の端末をワイヤで固定することその他の必要な物理的措置を講ずるものとする。

4 第一項から第三項までの規定によることができない場合における特定秘密文書等の保管は、特定秘密管理者の定めるところにより行うものとする。

(特定秘密の保護のための施設設備)

第十六条 特定秘密管理者は、前条に定めるもののほか、特定秘密文書等を保護するための施設設備について、間仕切りの設置、裁断機の設置その他の特定秘密を適切に保護するために必要な措置を講ずるものとする。

(特定秘密を取り扱うために使用する電子計算機の使用の制限等)

第十七条 特定秘密である情報を記録する電磁的記録は、インターネットに接続していない電子計算機であって、かつ、特定秘密の取扱いの業務を行う職員以外の者が当該電磁的記録にアクセスすることを防止するために必要な措置が講じられたものとして特定秘密管理者が認めたものにより取り扱うものとする。

2 特定秘密管理者は、特定秘密である情報を記録する電磁的記録を前項の電子計算機により取り扱う場合において、当該電磁的記録を可搬記録媒体に記録したとき又は印刷したときは、可搬記録媒体に記録したこと又は印刷したことの記録を保存するものとする。

3 前二項に規定するもののほか、特定秘密の取扱いの業務を行う職員は、特定秘密である情報を記録する電磁的記録を取り扱う場合には、警察情報セキュリティに関する訓令（平成十五年警察庁訓令第三号）及び栃木県警察情報セキュリティに関する訓令（平成十五年栃木県警察本部訓令乙第十三号）を厳格に適用するとともに、最新の政府機関の情報セキュリティ対策のための統一基準に定める情報の取扱いに関する遵守事項に即した適切な対応をとるものとする。

4 特定秘密の取扱いの業務を行う職員は、特定秘密である情報を記録する電磁的記録を電子計算機又は可搬記録媒体に記録するときは、暗証番号の設定、暗号化その他の保護措置を講ずるものとする。

（特定秘密文書等管理簿）

第十八条 特定秘密管理者は、特定秘密文書等の作成（翻訳、複製並びに電磁的記録の記録媒体への記録及び印刷を含む。以下この条及び次条において同じ。）、交付その他の取扱いの状況を管理するための簿冊（以下「特定秘密文書等管理簿」という。）を保全責任者ごとに備えるものとする。

2 保全責任者は、特定秘密文書等について、指定の整理番号、特定秘密文書等の件名、登録番号（特定秘密文書等ごとに付する一連番号をいう。第二十条及び第二十九条において同じ。）、作成又は受領の年月日及び交付先その他の事項を特定秘密文書等管理簿に記載し、又は記録するものとする。

3 特定秘密文書等管理簿の様式は、別記様式第九号を標準とする。

4 情報の保護上、特段の必要がある特定秘密文書等に係る特定秘密文書等管理簿は、他の特定秘密文書等に係る特定秘密文書等管理簿と分けて作成することができる。

第二節 作成

（特定秘密文書等の作成）

第十九条 特定秘密文書等の作成をするときは、作成する特定秘密文書等の数を当該作成の目的に照らして必要最小限にとどめるものとする。

（登録番号の表示）

第二十条 保全責任者は、次の各号に掲げる特定秘密文書等の区分に応じ、当該各号に定めるところにより、登録番号の表示をするものとする。ただし、当該特定秘密文書等の性質上登録番号の表示が困難であるときは、この限りでない。

一 特定秘密である情報を記録する文書又は図画特定秘密表示（第六条第二項の規定による記載をしている場合は当該記載）の傍らの見やすい箇所に、印刷、押印その他これらに準ずる確実な方法により赤色で付すること。

二 特定秘密である情報を記録する電磁的記録当該電磁的記録を電子計算機の映像面上において視覚により認識することができる状態にしたときに、特定秘密表示と共に赤色で認識することができるようにすること。

三 特定秘密である情報を記録し、又は化体する物件 特定秘密表示の傍らの見やすい箇所（見やすい箇所がないときは、その保管に用いる容器又は包装の外部）に、刻印、ラベルの貼付けその他これらに準ずる確実な方法により赤色で付すること。

第三節 運搬、交付及び伝達

（交付及び伝達の承認等）

第二十一条 特定秘密文書等を交付し、又は特定秘密を伝達するときは、特定秘密管理者の承認を得るものとする。

2 特定秘密文書等を貸与するときは、特定秘密管理者の指示を受け、当該特定秘密文書等の返却の期限を明示するものとする。

(運搬の方法)

第二十二条 特定秘密文書等（電磁的記録を除く。）の運搬は、当該特定秘密文書等に記録し、又は化体された特定秘密の取扱いの業務を行う職員の中から保全責任者が指名する職員が携行することにより行うものとする。

2 前項の規定によることができないとき又は不適當であるときの運搬は、特定秘密管理者の定めるところにより行うものとする。

(交付の方法)

第二十三条 特定秘密文書等を交付するときは、受領書に当該特定秘密文書等の交付の対象者又はその指名した職員（法第十一条の規定により特定秘密の取扱いの業務を行うことができることとされる者に限る。第二十七条、第三十一条及び第三十三条第三項において同じ。）から記名押印を得るとともに、特定秘密文書等管理簿に必要事項を記載し、交付の記録を残すものとする。

2 受領書の様式は、別記様式第十号を標準とする。

3 特定秘密文書等の交付は、郵送により行ってはならない。

(文書及び図画の封かん等)

第二十四条 特定秘密である情報を記録する文書又は図画を運搬し、又は交付するときは、当該文書又は図画を外部から見ることをできないように封筒又は包装を二重にして封かんするものとする。ただし、特定秘密の取扱いの業務を行う職員が携行する場合で特定秘密管理者が特定秘密の保護上支障がないと認めるときは、この限りでない。

(物件の包装等)

第二十五条 特定秘密である情報を記録し、又は化体する物件を運搬し、又は交付するときは、窃取、破壊、盗見その他の危険を防止するため、当該物件を運搬容器に収納し、かつ、当該運搬容器に施錠することその他の必要な措置を講ずるものとする。

(電気通信による送信)

第二十六条 特定秘密を電気通信により送信するときは、暗号化その他特定秘密を適切に保護するために必要な措置を講ずるものとする。

2 特定秘密の電気通信による送信は、電子メールその他のインターネットを通じた方法により行ってはならない。

(文書等の接受)

第二十七条 封かんされている特定秘密文書等は、名宛人又はその指名した職員でなければ開封してはならない。

(伝達の方法)

第二十八条 特定秘密を伝達するときは、その旨を明らかにするとともに、当該特定秘密の内容を筆記することを差し控えるよう求めることその他の特定秘密の保護について注意を促すために必要な措置を講ずるものとする。

2 特定秘密を電話により伝達するときは、暗号化して伝達するものとする。ただし、真

にやむを得ない場合で、特定秘密管理者の許可を受けたときは、この限りでない。

3 前項ただし書の場合においては、略号を用いることその他の特定秘密を適切に保護するために必要な措置を講ずるものとする。

4 特定秘密を伝達する場合には、盗聴及び盗見の防止に努めるものとする。

第四節 保管等

(特定秘密文書等の保管)

第二十九条 特定秘密文書等は、保全責任者が保管するものとする。

2 保全責任者は、特定秘密文書等の適正な管理のため必要と認めるときは、特定秘密文書等の件名、登録番号、保管開始日、保管終了日その他必要な事項を記載し、又は記録する特定秘密文書等保管管理簿を作成するものとする。

3 特定秘密文書等保管管理簿の様式は、別記様式第十一号を標準とする。

(特定秘密文書等の取扱いの記録)

第三十条 保全責任者は、特定秘密文書等の取扱いの経過を明確にするため、特定秘密文書等を取り扱った職員の氏名、年月日その他必要な事項を特定秘密文書等取扱簿に記載し、又は記録することにより保存するものとする。

2 特定秘密文書等取扱簿の様式は、別記様式第十二号を標準とする。

(廃棄)

第三十一条 特定秘密文書等の廃棄は、保全責任者又はその指名した職員の立会いの下に、焼却、粉碎、細断、溶解、破壊その他の当該特定秘密文書等を復元することができないようにするための方法により確実に行うものとする。

(緊急事態に際しての廃棄)

第三十二条 特定秘密文書等の奪取その他特定秘密の漏えいのおそれがある緊急の事態に際し、その漏えいを防止するため他に適当な手段がないと認められる場合における焼却、破碎その他の方法による当該特定秘密文書等の廃棄については、前条の規定は適用しない。

2 前項に規定する特定秘密文書等の廃棄をする場合には、あらかじめ長官の承認を得るものとする。ただし、その手段がない場合又はそのいとまがない場合は、廃棄後速やかにその旨を長官に報告するものとする。

3 第一項に規定する廃棄をした場合には、特定秘密管理者は、廃棄した特定秘密文書等の概要、特定秘密の漏えいを防止するために他に適当な手段がないと認めた理由及び廃棄に用いた方法を記載した書面を作成し、長官に報告するものとする。

第五節 検査

第三十三条 特定秘密管理者は、特定秘密の保護の状況について、検査を毎年度二回以上定期的に実施するものとする。

2 特定秘密管理者は、前項の検査のほか、必要があると認めるときは、特定秘密の保護の状況を臨時に検査するものとする。

3 特定秘密管理者は、前二項の検査をその指名した職員に行わせることができる。

4 第一項及び第二項の検査においては、特定秘密文書等管理簿及び特定秘密文書等保管管理簿の記載及び記録と特定秘密文書等の保管の状況の照合のほか、本訓令に規定された措置が確実に講じられているか否かの確認を中心に行うものとする。

- 5 特定秘密管理者は、第一項及び第二項の検査の実施状況について、長官の指示に従い、長官に報告するものとする。

第六節 紛失時等の措置

第三十四条 職員は、特定秘密文書等の紛失、特定秘密の漏えいその他の事故が発生し、又は発生したおそれがあると認めるときは、次の各号に掲げる職員の区分に応じ、直ちに、当該各号に定める措置を講ずるものとする。

- 一 特定秘密の取扱いの業務を行う職員（次号に定める報告を受けた職員を含む。）当該事故の内容に応じた適切な措置を講ずるとともに、講じた措置の内容を特定秘密管理者に報告すること。
 - 二 特定秘密の取扱いの業務を行う職員以外の職員当該事故の内容を当該特定秘密の取扱いの業務を行う職員に報告すること。
- 2 前項第一号の報告を受けた特定秘密管理者は、速やかに長官に報告するとともに、必要な調査を行い、かつ、当該特定秘密を適切に保護するために必要な措置を講ずるものとする。
- 3 特定秘密管理者は、前項の規定により調査を実施し、又は措置を講じた場合には、速やかに、当該調査の結果及び当該措置の内容を長官に報告するものとする。

第四章 特定秘密の指定等が法等に従っていないと認めたときの措置

第三十五条 職員は、特定秘密の指定及びその解除若しくはそれらに伴う措置又は文書ファイル管理簿（栃木県警察文書取扱規程（平成十二年十二月一日栃木県警察本部訓令甲第二十三号。以下「文書取扱規程」という。）第四十一条に規定する文書ファイル管理簿をいう。）に記載された簿冊等（文書取扱規程第四十条第一項に規定する簿冊等をいう。）であって、特定秘密である情報を記録するもの（第二項及び第四十九条において「特定簿冊等」という。）の管理が法、令又は運用基準（以下「法等」という。）に従って行われていないとき又はそのおそれがあると認めるときは、次の各号に掲げる職員の区分に応じ、直ちに当該各号に定める措置を講ずるものとする。

- 一 特定秘密の取扱いの業務を行う職員（次号に定める報告を受けた職員を含む。）適切な措置を講ずるとともに、講じた措置の内容を特定秘密管理者に報告すること。
 - 二 特定秘密の取扱いの業務を行う職員以外の職員特定秘密の指定及びその解除若しくはそれらに伴う措置又は特定簿冊等の管理が法等に従って行われておらず、又はそのおそれがある旨を当該特定秘密の取扱いの業務を行う職員に報告すること。
- 2 前項第一号の報告を受けた特定秘密管理者は、速やかに長官に報告するとともに、その事実が特定秘密の指定及びその解除に伴う措置又は特定簿冊等の管理に関するものである場合には、速やかに必要な調査を行うものとする。
- 3 前項の調査を行った場合は、調査の結果に応じ、適切な措置を講ずるとともに、当該結果及び当該措置の内容を長官に報告するものとする。

第五章 公益上の必要による特定秘密の提供の手続

第三十六条 特定秘密管理者は、法第十条第二項の規定により、同条第一項第一号に掲げる場合として、特定秘密の提供を行うとき（当該特定秘密が同条第一項第一号ロに掲げる業務において利用するものとして提供を受けたものである場合を除く。）は、当該提供が我が国の安全保障に著しい支障を及ぼすおそれがないと認める理由を記載した書面

を添えて長官に承認の申請を行うものとする。

- 2 法第十条第二項の規定により特定秘密（同条第一項第一号（イに係る部分を除く。）、第二項又は第三項の規定により提供を受けたものを除く。）を提供する場合における特定秘密文書等の交付について第二十三条第一項を適用する場合には、同条中「職員（法第十一条の規定により特定秘密の取扱いの業務を行うことができることとされる者に限る。第二十七条、第三十一条及び第三十三条第三項において同じ。）」とあるのは「者」と読み替えるものとする。

第六章 公益上の必要による特定秘密の提供を受けた場合の保護措置

第三十七条 法第十条第一項第一号（イに係る部分を除く。）の規定により特定秘密の提供を受けた場合（同条第二項及び第三項の規定により同条第一項第一号（イに係る部分を除く。）に掲げる場合として提供を受けた場合を含む。）は、第四条、第六条、第七条、第九条第一項、第十五条、第十七条、第十九条、第二十一条から第二十八条まで、第三十一条、第三十三条第二項から第四項まで並びに第三十四条第一項及び第二項に規定する措置を講ずるものとする。この場合において、別表の左欄に掲げる規定の適用については、これらの規定中同表の中欄に掲げる字句は、それぞれ同表の右欄に掲げる字句に読み替えるものとする。

- 2 前項に規定する特定秘密の提供を受けた場合において、職員は、前項に規定する措置のほか、次の各号に掲げる区分に応じ、当該各号に定める措置を講ずるものとする。
 - 一 警察本部長 当該特定秘密の保護に関する業務を管理する者を指名すること。
 - 二 前号の規定により指名された者 当該特定秘密を利用し、又は知る者に対し、特定秘密の保護の重要性を理解させること及び当該提供の目的である業務以外に当該特定秘密が利用されないようにすること。

第七章 適性評価

（適性評価実施責任者）

第三十八条 運用基準IV 2（1）に規定する適性評価実施責任者は、警務部長をもって充てる。

（適性評価実施担当者）

第三十九条 運用基準IV 2（2）に規定する適性評価実施担当者は、警務部警務課長及び警務部警務課（以下「警務課」という。）の職員（警務課長を除く。）のうちから適性評価実施責任者が指名する職員をもって充てる。

（適性評価に関する事務への関与の制限）

第四十条 前二条の規定により適性評価に関する事務に関与することができる職員は、自らに対する適性評価に関する事務（法第十五条第二項において準用する第十二条第四項の規定による質問への回答並びに適性評価に必要となる資料の提出及び連絡を除く。）に関与してはならない。

（候補者名簿等）

第四十一条 運用基準IV 3（1）アに規定する名簿（以下「候補者名簿」という。）の様式は、別記様式第十三号のとおりとする。

- 2 運用基準IV 3（2）イに規定する特定秘密管理者に対する通知は、別記様式第十四号の書面を交付することにより行うものとする。

(適性評価の結果等の通知)

第四十二条 運用基準Ⅳ 4 (3)イ及び(4)ウ並びに7 (2)アに規定する通知は、別記様式第十五号の書面を交付することにより行うものとする。

(適性が認められた者の名簿の作成)

第四十三条 適性評価実施責任者は、適性評価の結果、特定秘密の取扱いの業務を行った場合にこれを漏らすおそれがないと認められた者について、その氏名、生年月日、勤務先の名称、所属する部署、役職名及び警察本部長が直近に実施した適性評価において特定秘密を漏らすおそれがないと認められた旨を通知した日を記載し、又は記録した適性認定者名簿を作成するものとする。

2 適性認定者名簿の様式は、別記様式第十六号のとおりとする。

(苦情受理窓口)

第四十四条 運用基準Ⅳ 8 (1)アに規定する苦情受理窓口は、警務課とする。

(苦情処理責任者)

第四十五条 運用基準Ⅳ 8 (1)アに規定する苦情処理責任者は、警務部長をもって充てる。

(苦情処理担当者)

第四十六条 運用基準Ⅳ 8 (1)イに規定する苦情処理担当者は、警務課の職員のうちから苦情処理責任者が指名する職員をもって充てる。

(適性評価の実施等への協力)

第四十七条 特定秘密管理者は、適性評価実施責任者に対し、時間的余裕をもって候補者名簿を提出するなど、適性評価に関する事務が円滑に行われるよう必要な協力を行うものとする。

(適性評価の実施の状況についての報告)

第四十八条 適性評価実施責任者は、毎年度少なくとも一回、運用基準Ⅴ 5 (1)(ク)から(シ)までに掲げる事項を栃木県公安委員会に報告するものとする。

(第八章 通報窓口の設置)

第四十九条 特定秘密の指定及びその解除若しくはそれらに伴う措置又は特定簿冊等の管理が法等に従って行われていないと認められる場合に行う通報を受け付け、処理する窓口は、警務部監察課とする。

第九章 雑則

(指定前の取扱い)

第五十条 特定秘密として指定されることが予想される情報又は当該情報に係る文書、図画、電磁的記録若しくは物件については、法、令、運用基準及び本訓令に定める措置に準じた措置を講ずるよう努めるものとする。

(国際約束に基づき提供された情報の目的外利用の承認)

第五十一条 情報の保護に関する国際約束に基づき提供された情報に係る特定秘密を、提供された目的以外の目的のために利用するときは、事前に長官の承認を得るものとする。

(国際約束に基づき提供された情報である特定秘密の取扱い)

第五十二条 前条までに定めるもののほか、情報の保護に関する国際約束に基づき提供された情報である特定秘密については、当該国際約束の定めるところにより取り扱うものとする。

(補則)

第五十三条 本訓令の実施に関し必要な事項の細目は、適性評価に係る事項及び通報に係る事項については警務部長が、それ以外の事項については特定秘密管理者がそれぞれ定めることができる。

(訓令の特例)

第五十四条 特定秘密管理者は、その業務の特殊性に鑑み、特に必要があると認めるときは、長官の承認を得て、特定秘密の保護措置を別に定めることができる。